

# 新線開業情報

## (時刻表掲載順)

本誌第9号編集時(2022年3月)以降に開業した主な路線を紹介します。ここで紹介した路線・区間の延長の合計は約1865kmです。

### 1. 濟鄭高速線(b07) 濮陽東～鄭州東 193km※

鄭州と濟南とを結び計画の高速鉄道、濟鄭高速線の河南省内区間が部分開業しました。鄭州東から約190km離れた濮陽東まで最速52分で結ばれ、濮陽は鄭州から一時間で到着できる都市圏となりました。河南省北東部の交通の便を大幅に改善するとともに、将来の全通時は河南省の中原都市圏と山東半島都市圏を結び最短通路として重要な役割を果たします。

### 2. 阜黄高速線(b59) (黄冈東～) 巴河所～黄梅東 127km※

湖北省武漢都市圏と長江デルタ地域を結び路線として、既存の寧蓉線ルートとは別に、新たに阜黄高速線ルートが形成されました。250km/h規格の寧蓉線ルートとは異なり、350km/h走行可能な規格で、G列車が高速走行可能であることが特徴です。本区間の開業による連絡機能により、両地域の所要時間は大幅に短縮されます。

### 3. 余花連絡線(b73) (余家湾～) 南湖東～武漢東～花山所 14km※

従来、武九客專線の電車列車は武漢市街において漢口～武漢と市街の北側を経由するしかありませんでしたが、本路線と新駅「武漢東」の開業によって、武昌～武漢東と南側を経由することも可能になりました。将来建設される大規模ターミナル駅「武漢西」(仮称)との連絡も担う本路線は、武漢市の東側と西側とを直結する新ルートとして重要な役割を果たします。

### 4. 鄭渝高速線(e23) 襄陽東～万州北 431km※

2013年以来9年にわたって工事と部分開業が続いていた、鄭州と重慶を最短ルートで結び鄭渝高速線1065kmのうち、最後の区間である襄陽東～万州北431kmが開通し、鄭渝高速線が全通しました。これにより、北京～重慶が、従来の成渝高速線・西成高速線経由の高速列車の11時間半に比べて大幅短縮となる、最速7時間強で結ばれるようになりました。華北・華中方面と重慶方面の所要時間を大幅に短縮しました。

### 5. 渝厦高速線(e43) 益陽南～長沙西 64km※

長沙と、豊かな観光資源を持つ益陽とが高速鉄道で結ばれました。本路線は将来、さらに常德まで延伸される予定で、ほかの建設中の区間と合わせて全通すると重慶と厦門を結び長大路線となります。益陽から長沙まで在来線経由で70分かかっていましたが、本路線の開業により31分で結ばれるようになります。

### 6. 大瑞線(e57) 大理～保山 133km※

ミャンマー国境の町である瑞麗と大理とを結び計画の大瑞線のうち大理～保山の区間が14年に及び難工事を経て開業しました。今後、ミャンマーを経てシンガポールに至る計画の国際鉄道ルートとして重要な構成部分を担います。

### 7. 貴陽環線(f13)

(貴陽北～) 白雲北～貴安～花溪南～双竜南 (～貴陽北) 78km

中国で初めての都市近郊輸送を前提とした国鉄環状線が開業しました。国鉄による複線電化路線であり、小碧～白雲北間を新設した上で、既存路線と接続し環状にしたものです。貴陽市

内の15の景観地区を経由し最短1時間35分で周回します。

### 8. 和若線(g15) 若羌～和田 825km※

タクラマカン砂漠の南端を横断するようにして、和田(ホータン)から若羌(チャルクリク)を結び鉄道が開業しました。昨年開業した格庫線や既存路線の南疆線・喀和線と合わせて、これにより、世界で初めての砂漠環状鉄道(全長2712km)を形成することになりました。

### 【番外】北京豊台駅

北京で最初にできたターミナル駅でありながら、輸送近代化の流れの中で北京駅や北京西駅に機能を集約され2010年以降は旅客列車が止まらなくなっていた「豊台」駅が、このたび高速鉄道中心の新たな拠点駅としてリニューアル開業しました。これにより、京広高速線も晴れて全線開通となりました。高速線、普通線両用駅で、目下の発着本数は多くありませんが、「アジア最大の旅客ターミナル駅」として将来は京港高速線の始発駅の役割も担う予定です。

※印を付した路線は、今号の基準として採用している鉄道客貨運輸専刊には未掲載のため、線名・区間・キロ程のいずれも仮のデータです。

また編集工程の都合上、本欄記載の各データの方が時刻表本文の内容より新しい場合もあります。